

建学の由来と理念

日本は明治維新後、西洋文明を積極的に受容し、社会の近代化を急速に推進してきました。このため社会はおおいに伸張を遂げましたが、あまりに急激な近代化であったため、伝統文化を破壊し、軽視する風潮さえ生じました。日露戦争後には、国内問題が悪化し国民意識が変化するなかで、さまざまな社会問題が発生し、深刻な社会不安が引き起こされました。

このような当時の社会状況を憂い、柴田徳次郎ら有志は、日本の「革新」をはからんと、「社会改良」と「青年指導」を目的として1913(大正2)年「青年大民団」を組織し、1917(大正6)年、「活学を講ず」の宣言とともに、私塾「國士館」を創立するに至りました。

創立者たちのねらいは、吉田松陰の精神を範とし、教学の適地として世田谷の松陰神社隣接地に学舎を建設し、「國士館設立趣旨」でうたわれているように、日々の「実践」のなかから心身の鍛錬と人格の陶冶をはかり、国家社会に貢献する智力と胆力を備えた人材「國士」を養成することにありました。

以来、「國士」養成を理念として、学ぶ者みずからが不断の「読書・体験・反省」の三綱領を実践しつつ、「誠意・勤労・見識・気魄」の四徳目を涵養することを教育理念に掲げ、さまざまな分野で活躍する人材を世に輩出してきました。

今日、國士館は、このような建学の志を大切に継承しながら、新たに発展を遂げた研究教育の諸領域でも、知識と実践の水準を高めつつ、世界の平和と進運を目指し、現代社会に積極的に貢献する真摯な努力を続けています。

建学の精神

「物質文明」を統御する「精神教育」を重視し、「心身の修練」と「知徳の精進向上」を目指し、国家社会の将来を思い、世界の平和と国家社会の改革向上に貢献する人材、即ち「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材『國士』の養成」を目指す。

教育理念

「國士」養成のため、四徳目「誠意・勤労・見識・気魄」を兼ね備える教育を行う。

「誠意」とは、真心と慈悲の心で、世のため、人のために尽くすこと
「勤労」とは、向上心を持って、誠実に仕事をする事
「見識」とは、道理のもと、物事を見抜く力をもつこと
「気魄」とは、信念と責任を持って強い心でやり通す力のこと

教育指針

四徳目を備えるには、不断の「読書・体験・反省」を実践し「思索」すること。

「読書」とは、善き書物に学び、世の中や自然界の真を理解すること
「体験」とは、智恵を持って善悪を判断し、善なる判断を実行すること
「反省」とは、何事も行った後、その行為を省みること
「思索」とは、省みた内容を検討し、次なる目標を立案すること

CONTENTS

目次

| | |
|----|--------------|
| 06 | 理事長挨拶 |
| 07 | トピックス |
| 08 | データファイル 2017 |
| 08 | 学生数 |
| 10 | 留学生数 / 国際交流 |
| 12 | 就職状況 |
| 14 | 卒業生数 / 財務状況 |
| 16 | 教育 |
| 16 | 学長挨拶 |
| 17 | 学年暦 |
| 18 | 学部 |
| 20 | 大学院 |
| 22 | 校長挨拶 |
| 23 | 中学校・高等学校 |
| 24 | 研究 |
| 26 | 支援 |
| 30 | 組織 |
| 34 | 環境 |
| 34 | 世田谷キャンパス |
| 35 | 町田キャンパス |
| 36 | 多摩キャンパス |
| 37 | 出版物 |
| 38 | 歴史 |
| 38 | 年表 |
| 40 | 設置学校の変遷 |
| 43 | 館歌・校章 |
| 44 | アクセス |
| 45 | お問い合わせ窓口一覧 |